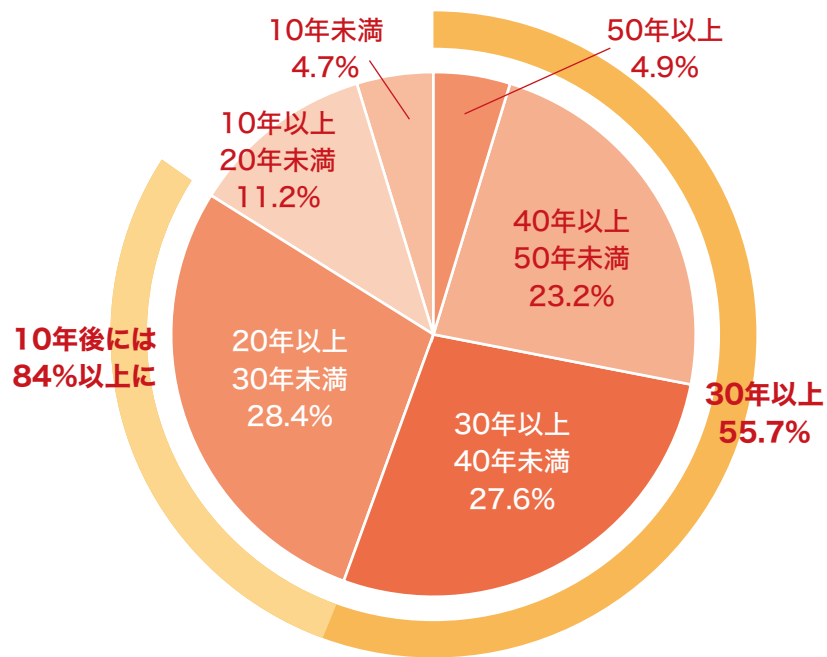


グラフ3 築年数別の延床面積の割合



◆10年後には、約8割が築30年以上に

10年後には、約8割が築30年以上に  
す。今回は12月号に掲載予定です。

三木市では、大規模改修の必要性が高い「築30年以上」の施設が全体の56%を占めています。また、10年後には全体の8割以上を占めることになり(グラフ3)、今後、これらの大規模改修や建替え時期が一斉に到来します。このまま全ての施設を維持・更新すれば多額の費用が一斉に必要となります。

施設の維持の負担が大きくなる  
と、本間に必要な市民サービスに  
影響が出かねません。  
この課題に対応するため、必要  
な施設機能は維持しつつ、人口規  
模に合った施設量に見直す必要が  
あることから、公共施設の再配置  
計画の策定に取り組んでいます。

一斉に更新時期を迎えます

人口規模に合った施設量に

シリーズ  
次世代のために考える  
公共施設

～①一斉に更新時期がやってくる!～

211施設、32.7万平方メートル。  
これは三木市が保有する公共施設(ハコモノ)  
の数と、総延床面積です。  
人口減少、少子・高齢化や厳しい財政状況が  
予測される今、公共施設の在り方は、大きな転  
換期を迎えています。

問(市)財政課 公共施設マネジメント係

公共施設の現状と課題

全国の自治体が公共施設の更新問題への対応を迫られています。

理由は、高度経済成長期に集中的に整備された学校、公会施設、公営住宅などの多くの施設が、今後一斉に老朽化し、更新(大規模改修や建替えなど)に多額の費用が必要となり、自治体の財政運営上大きな課題となることが見込まれているからです。

三木市の状況  
人口は減、施設は増

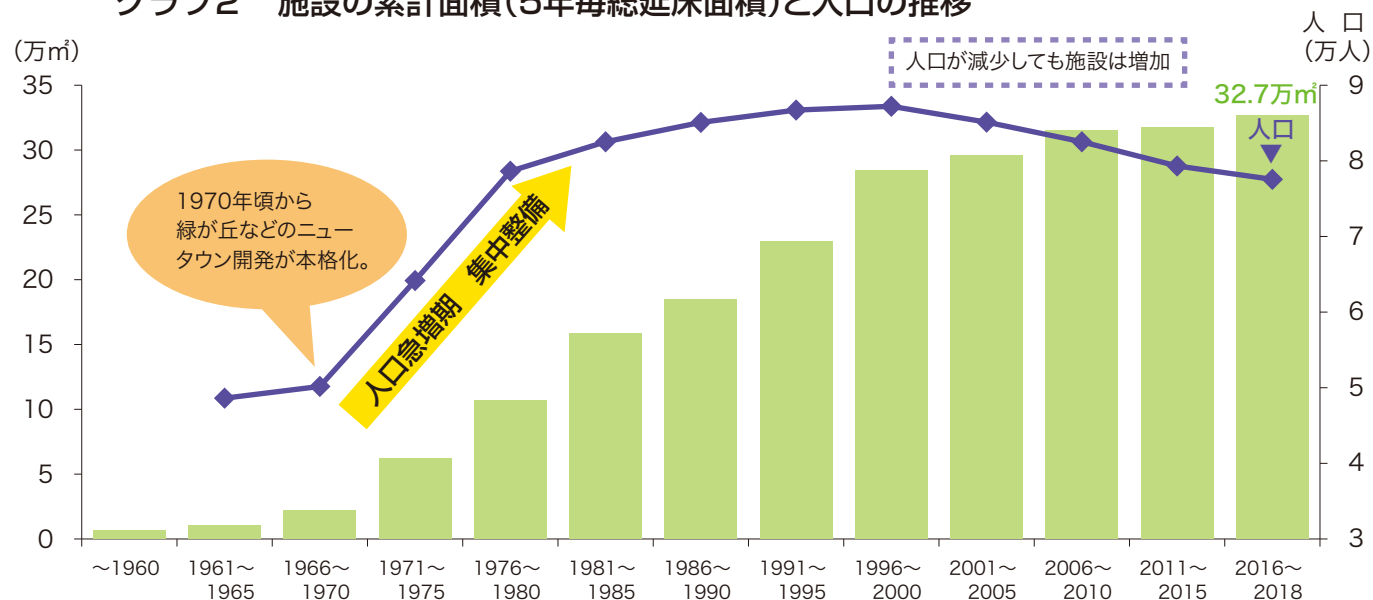
三木市も1970年代、1980年代にかけて緑が丘などのニュータウン開発により急激に人口が増加し、学校、集会施設などの公共施設を集中的に整備してきました(グラフ1)。

1997年の88,232人をピークに人口は減少に転じましたが、施設はその後も増加し、現在、211施設、総延床面積は約32.7万㎡(市民一人あたり4.2㎡)となっています(グラフ2)。

主な公共施設の延床面積の割合

施設種別	割合
学校	41.6%
公民館や文化会館	11.7%
公営住宅	9.7%
体育館や福祉施設など	37.0%

グラフ2 施設の累計面積(5年毎総延床面積)と人口の推移



グラフ1 施設の整備面積(5年毎)と人口の推移 ※大規模改修は築後30年、建替えは60年が目安

